



往還通信

第123号

ホームページ <https://miekenjukai.com>

E-mail oukan@ccnetmie.ne.jp



社会福祉法人 三重健寿会

特別養護老人ホーム 往還

〒510-8103 三重県三重郡朝日町大字柿字熊之田534番地

Tel (059)377-6011 Fax (059)377-6001

R6.4.11発刊



新年度のご挨拶



施設長 柿沢佳世子

令和6年度がスタートしました。4月から面会の時間も長くなり、当たり前に行われていた生活に少しずつ戻りつつあります。今年は寒かったこともあり、遅い開花でした。往還入り口のアーモンドの花、河津桜、ソメイヨシノなど、これから成長していく木々が今を精一杯咲いています。短時間ではありますが、職員が往復して伊坂ダムまでお連れしたり、往還の庭で春を感じてもらおうと、入れ代わりご利用者と職員が玄関を行き来する姿が見られました。外へ出かけることで、五感が満たされ、心が動き、「楽しかったわ」とご機嫌な様子でした。ご利用者の喜びは職員にとっても大きなよろこびです。ご家族も同じお気持ちだと思います。

ところで、往還のホームページをご覧になったことがあるでしょうか。

初めのページに利用者をお大切にすることはご家族をお大切にすること、そして自分自身をお大切にすること、全て同じ。利用者、ご家族、職員、施設、全て良し！を目指します。と載せています。

利用者

- ・自分のリズム、寝たい、起きたい「～したい」にこたえる。ご利用者の個々のリズムや気持ちに寄り添い、心地よい生活をサポートします。
- ・安心、笑顔、自分でいられる。往還で過ごす時間が、ご利用者にとって安心であり、笑顔でいられる場所であることを目指します。

ご家族

- ・いつも安心。ご家族の皆様が家にいるときも、往還に来たときも、いつも安心していただけるように最善を尽くします。その安心感がご家族の生活を楽しむことにつながります。

職員

- ・往還職員は、人の命や時間に限りがあることを実感しながら、自分自身の成長と往還での貢献を大切にしています。往還の名の通り、往ったり還ったりしながら、らせんのように自分に還っていきます。

ご利用者もご家族も職員もみな同じ人間として、お互いがお互いを認め合い、信頼し、上記に書いた、利用者をお大切にすることはご家族をお大切にすること、そして自分自身をお大切にすること、全て同じ。利用者、ご家族、職員、施設が同じ並びで全て良し！を目指し、お互いの最善を尽くします。

今年度もどうぞよろしくお願いいたします。





節分レクリエーション

東2Fで節分レクリエーションを行いました。
職員2名が鬼役になってもらい、利用者様には新聞紙で作ったボール(豆)を「鬼は外～福は～うち～」と鬼に向かって豆をぶつけて頂きました。皆さん頑張って鬼にぶつけて頂き、楽しそうにされていました。
最後に鬼さんと一緒に記念撮影をして終わりました。



ひな祭りレクリエーション

3月3日は桃の節句という事でひな祭りのレクリエーションを行いました。
1階にある雛人形を職員と見に行きました。「可愛いね」や「昔はよく飾ったわ」など様々な思いを話されながら見られていました。
ひなまつり御膳やひなあられ、甘酒を召し上がって頂いた際には「今日はひなまつりか」と食を通して季節を感じて見えました。
ユニット内でのひな祭りのレクリエーションとしてボール投げをしました。頑張って高得点を狙って投げて頂きました。



お花見レクリエーション



4月初めに伊坂ダムへお花見に出かけました。約4年ぶりの外出レクです。
コロナ禍で利用者の皆様は外出や家族様との面会等の制限で中々思い通りの日々を過ごして頂くことが出来ずストレスも溜まっていたことと思います。久しぶりのドライブで晴天にも恵まれ桜を目で肌で感じて頂く事が出来ました。”すごく良かったわ”と満面の笑みで皆様に喜んで頂きました。車で外出できない利用者様には往還駐車場内に咲く往還桜を背に記念撮影して頂きました。
季節感を感じて頂き良かったと思います。



お花見御膳

イチゴロールケーキ

老と死／斗争と和解 (Ⅲ) 「夜中に爪を切ると・・・」

理事長 柿澤善樹

「夜中に爪を切ると親の死に目に会えない」昔からの諺である。「ささくれがあると親不孝」聞くとギクッとした記憶がある。「親孝行、したい時分に親はなし」「いつまでもあると思うな親と金」「親の心、子知らず」などよく聞く。「親孝行と火の用心は灰にならぬ前」「親には一日三度笑って見せよ」などもある。

「夜中に爪を切ると親の死に目に会えない」は昔、灯が行燈など不十分で、専用の爪切りがなかった頃、深爪をして感染症に罹り、親より早く死ぬ、危険なことはやめろとの意味があるようだ。呪われて「親の死に目に会えない間に合わない」ではなかった。

私自身は両親の死に目には会えなかった。母は悪性腫瘍で術後再発し入院中、妹が付き添っていて、水を飲みたいというので楽のみを渡し、その場を離れ、戻ったら水を詰まらせ心停止していたと聞いた。その時、吸引や心臓マッサージをしたかどうかは聞いていない。現在その病気は大部分完治する。その転移は播種性転移といい、切除した病巣組織を取り出すとき周囲の臓器組織に落ちないように、触らないようにすることで治癒率が大きく上がることが分かっている。単にそれだけの事。これを手術ミスとするのか、逆に医学の進歩と捉えるのか。88歳の父は田植え前、「田おこし」の最中に倒れた。それを見つけた方が救急車を呼んだ。AEDを備えてなく、別の救急車が来るのを待ち、除細動、人工呼吸を行ったが戻らなかった。私が連絡を受け、救急車に入った時、救命士が驚いたように人工呼吸を始めた、と感じた。心臓マッサージを行い、AEDにて除細動を行いダメと判断していたのであろう。家族が駆け付けた時、最後まで救急措置を行っていると見せたかったのだろう。AEDは愛知万博会場にて使用され助命できたニュースが流れたころから普及し始めた。その2年前、父が亡くなった頃はすべての救急車に装備されていなかったのである。救急車を配車するとき、状況を把握してAEDが必要かどうか判断しなかったのは消防署の職務怠慢だとか、私が救急車に到着したとき、心臓マッサージをしていなかったらどうかという気は全くない。AEDは心室細動への除細動器で、高齢者が徐脈になり静かに心停止する場合は全く効果がない。畑仕事などをしていて急な心停止（心室細動）こそ効果がある。AEDを装備していない救急車を配備した消防署を追及しても当時の状況で最大限尽くしてくれたと考えるのが妥当だ。倒れている父を見つけた方に、何故もっと早く見つけてくれなかったのかと追及しないのとはほぼ同様である。休日に自宅でパソコンをいじっていて88歳の老人が田んぼで作業しているのを手伝わなかった息子はどうなのだ。かつて10反所有していた田は高速道路で3反手放し、結果的にはそれでは足りなかったが、その資金で田んぼに老人ホームを作ろうとしたら土地を国（社会福祉法人）へ寄付することになると反対された。開発中の山に4反ほどの土地の所有権があるのでそこに建設すればと言っていた。普通ならスムーズにそうなるべきだったが、逆に「村八分」のような状況になっていた。父が亡くなったのは母の27回忌法要2日後であった。「もうこれでいいわ」と思っていたかもしれない。母は土地を売ったらその分買えと言っていた。現在、我家所有の田んぼは2反ほどになっている。大相撲春場所で110年ぶりに新入幕力士が優勝した。大正3年以来であると聞くと、大正5年生まれの子や母が生きていれば108歳なのかと考えてしまう。今年の1月1日にひ孫が生まれた同級生がいる。いつの間にか、私は親孝行を考える子でなく、されるかもしれない親になっていたようだ。世代は受け継がれ交代する。





短歌



往還の宿直職員としてお仕事をさせて頂いております
小柳 昭夫です。少し短歌を勉強しております、
スマホで投稿にも取り組んでいます。





身近な事象で日々の暮らしの中のしみじみとした楽しみを詠み分けています。我流ですが載せさせていただきます。是非皆さんも取り組んでみてください♪

③



学 今 た 明 は
び 日 の 日 か
を も む の な
は と か 命 く
せ な を も
て

明日から
本気だす



②

舟 歌 お 昭 偲
唄 い 彼 和 び
を 出 岸 の ま
す に 歌 す
の 姫 を
さ

①

活 ド オ 日 楽
躍 ジ ー 本 し
の ャ タ の み
時 ー ニ の は
ス ー さん 宝
快 さん
勝

①毎朝アメリカからの映像に元気もらいショータイム感謝します。

②73歳で旅立った八代亜紀さん。優しい内面とドレス姿がアンバランスでした。安らかにお眠り下さい。

③「津島いろは歌」より。

人間は明日があるという確かな当てがあるわけでもないのに明日も命があるだろうと決めては何かと理由をつけて学ぼうとしない。

行事予定

4月～7月の行事予定です

- 4/3 (水) お花見御膳
- 5/1 (水) 皐月御膳
- 6/14 (金) 往還開所記念御膳
- 6/16 (日) 紅白まんじゅう
- 7/5 (金) 七夕御膳
- 7/7 (日) 七夕デザート
- 7/24 (水) 土用の丑の日 (うなぎ献立)

